

算定基礎届に退職社員が印刷・作成されてしまう場合の対処方法 『すでに算定基礎処理を行っている場合』

この資料は以下の製品について記述したものです。

- ・ 給与奉行V ERP シリーズ
- ・ 給与奉行 / シリーズ

内 容

[社会保険]-[算定基礎処理]メニューで、算定基礎届に退職社員が印刷・作成されてしまう現象の対処方法について記載します。

対処方法

算定基礎処理で届出区分を「0：届出不要」に変更する

退職社員を印刷・作成させないために、以下の作業を行ってください。

[社会保険]-[算定基礎処理]-[算定基礎処理]メニューの届出欄で、算定基礎届の対象とならない退職社員の届出区分を「0:届出不要」に変更します。

※7月1日以降に退職する社員（資格喪失年月日が7月2日以降）は、算定基礎届の対象となるため、「0：届出不要」には変更しないでください。

社員番号	氏名	届出	未処理社員数
100009	野村 美由紀	0 届出不要	0

健保証番号 (厚年整理番号)	生年月日	種別	健保の従前	厚年の従前	備考
169754 (256095)	昭和42年 4月24日	2:女子	0440 千円	0440 千円	

月	日	円	円	円	円	円	円	円				
4	31	通	434,850	現	0	434,850	総計	1,304,550 円	適用年月	23 年 9 月	遡及支払額	0 円

なお、退職社員の人数が多い場合で、社員1名1名の届出区分を変更していくのが大変な場合は、次ページの

汎用データを利用して、届出区分を一括で「0：届出不要」に変更する

[＜退職社員の人数が多い場合の手順＞](#)

の作業を行ってください。

汎用データを利用して、届出区分を一括で「0：届出不要」に変更する

＜退職社員の人数が多い場合の手順＞

以下の作業をする前に、必ず[随時処理]-[バックアップ]メニューでバックアップデータを作成しておいてください。

退職社員を印刷・作成させないために、以下の作業を行ってください。

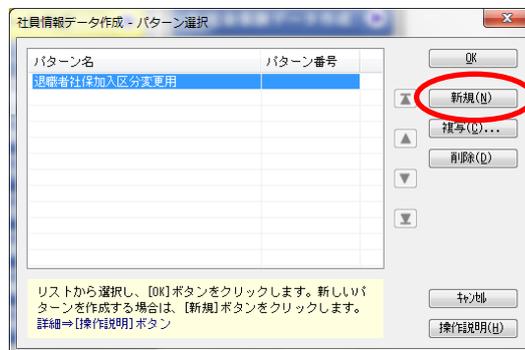
まず、[随時処理]-[汎用データ作成]-[社員情報データ作成]-[社員情報データ作成]メニューを利用して、汎用データ上で在籍区分が「2：退職」の社員を確認し、退職社員の届出区分を「0：届出不要」に変更します。

続いて、[随時処理]-[汎用データ受入]-[社会保険データ受入]-[算定基礎データ受入]メニューで、「0：届出不要」に変更した届出区分を受け入れます。

作業手順は、以下のとおりです。

①[随時処理]-[汎用データ作成]-[社員情報データ作成]-[社員情報データ作成]メニューを選択します。

②[社員情報データ作成 - パターン選択]画面で[新規]ボタンをクリックし、新規の作成パターンを設定します。



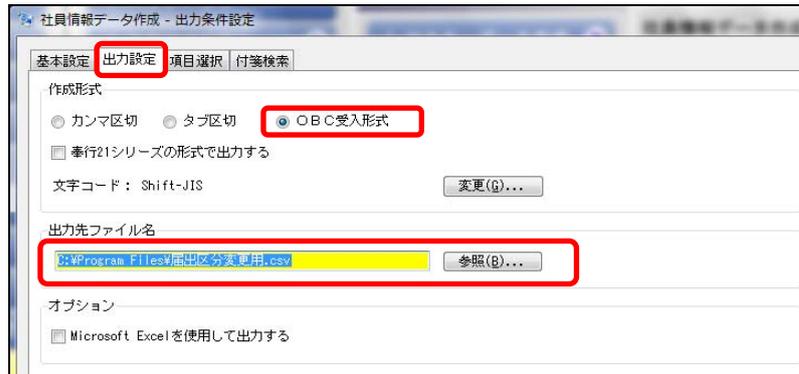
③[基本設定]ページの範囲指定で、「退職社員を含めて作成する」にチェックを付けます。

※パターン名には、「退職社員届出区分変更用」などと、分かりやすい名称を入力してください。



④[出力設定]ページの作成形式で、「OBC受入形式」を選択します。出力先ファイル名で、ファイルの出力先とファイル名を指定します。

※例として、以下の画面では出力先ファイル名を「C:\Program Files\届出区分変更用.csv」としています。



⑤[項目選択]ページの情報種類が「基本」の中から、社員番号・氏名・在籍区分を選択し、選択済項目に追加します。



⑥[出力開始]ボタンをクリックし、汎用データを作成します。

⑦作成した汎用データのファイルを、Microsoft Excel 等で開きます。

D列の1行目に、届出区分の受入記号「IBAS001」を入力します。

	A	B	C	D
1	EBAS001	EBAS003	EBAS006	
2	100000	山田 一郎	0	
3	100001	川谷 しげる	0	
4	100002	小川 いずみ	0	
5	100003	小山 信一	0	

➔

	A	B	C	D
1	EBAS001	EBAS003	EBAS006	IBAS001
2	100000	山田 一郎	0	
3	100001	川谷 しげる	0	
4	100002	小川 いずみ	0	
5	100003	小山 信一	0	

⑧C列（1行目の受入記号が「EBAS006」の列）の中で、値が「2」（退職）の行を検索します。

該当するすべての行に対して、D列（⑦で受入記号「IBAS001」と入力した列）の値を「0」（届出不要）に変更して、ファイルを上書きで保存します。

※7月1日以降に退職する社員（資格喪失年月日が7月2日以降）は、算定基礎届の対象となるため、「0」（届出不要）には変更しないでください。

	A	B	C	D
1	EBAS001	EBAS003	EBAS006	IBAS001
2	100000	山田 一朗	0	
3	100001	川谷 しげる	0	
4	100002	小川 いずみ	0	
5	100003	小山 信一	0	
6	100004	新井 清雄	0	
7	100005	麻田 徳治	0	
8	100006	加藤 恭子	0	
9	100007	田中 敏夫	0	
10	100008	藤川 光男	0	
11	100009	野村 美由紀	2	0
12	100010	福岡 明夫	0	
13	100011	政岡 信夫	3	
14	100012	森沢 公彰	0	
15	100013	筒井 英治	0	
16	100014	山川 静夫	0	
17	100015	川又 徳治	0	
18	100016	平光 浩一	0	
19	100017	福井 和栄	0	
20	100018	田中 政紀	2	0
21	100019	深瀬 安正	0	

C列（「EBAS006」の列）の中で、値が「2」（退職）の行を検索します。その行のD列（「IBAS001」の列）の値を「0」（届出不要）に変更します。

⑨ファイル内のB列、C列を選択して削除します。ファイルを上書きで保存します。

	A	B	C	D
1	EBAS001	EBAS003	EBAS006	IBAS001
2	100000	山田 一朗	0	
3	100001	川谷 しげる	0	
4	100002	小川 いずみ	0	
5	100003	小山 信一	0	
6	100004	新井 清雄	0	
7	100005	麻田 徳治	0	
8	100006	加藤 恭子	0	
9	100007	田中 敏夫	0	
10	100008	藤川 光男	0	
11	100009	野村 美由紀	0	
12	100010	福岡 明夫	0	

削除(D)

	A	B
1	EBAS001	IBAS001
2	100000	
3	100001	
4	100002	
5	100003	
6	100004	
7	100005	
8	100006	
9	100007	
10	100008	
11	100009	0
12	100010	

⑩[随時処理]-[汎用データ受入]-[社会保険データ受入]-[算定基礎データ受入]メニューを選択します。

⑪[基本設定]ページで、「処理済社員のデータも受け入れる」にチェックを付けます。

算定基礎データ受入 - 受入条件設定

基本設定 詳細設定 受入ファイル設定 重複条件設定 エラー情報設定

算定基礎処理対象

算定基礎年 平成23年 遡及支払月 4月

適用年月 平成23年 8月

徴収開始月 平成23年10月 給与体系別設定(S)...

処理済社員のデータも受け入れる

- ⑫[受入ファイル設定]ページで、受入データ形式に「 [100] O B C受入形式」を選択し、⑨で保存した汎用データのファイルを、受入元ファイル名に指定します。

算定基礎データ受入 - 受入条件設定

基本設定 | 詳細設定 | **受入ファイル設定** | 重複条件設定 | エラー情報設定

受入データ形式
[100] O B C受入形式

受入元ファイル名
D:\Program Files\届出区分受入専用.csv

- ⑬[受入開始]ボタンをクリックし、汎用データを受け入れます。

- ⑭受入済リストにて、退職社員の届出区分が「0」（届出不要）になっていることを確認してください。

受入済リスト	
平成23年 算定基礎	
O B C 商事株式会社	
算定基礎データ受入	
社員番号	届出区分
100000	
100001	
100002	
100003	
100004	
100005	
100006	
100007	
100008	
100009	0
100010	

以上